【目的】 がん患者と家族のQOLの維持・向上に向けて、療養生活支援方法や症状マネジメントの能力を高め実践できる												
【目標】 1. がんの基礎知識とがん患者の特徴を理解し、療養生活の支援方法を考えることができる 2. 緩和ケアの基礎知識と考え方について理解できる 3. がん患者における症状マネジメントと看護援助が理解できる 4. 患者、家族のセルフマネジメント能力をあげる指導ができる 5. より質の高い医療を推進するため、他職種と共働し、チームの一員として役割を果たすことができる												
講習日	1 6月14日		2 7月12日		3 9月20日		4 10月11日		5 11月29日		6 12月13日	
講師	熊谷 熊谷		熊谷		熊谷		熊谷		熊谷		熊谷	
場所	第1会議室		講堂		講堂		講堂		講堂		講堂	
内容	がんの基礎知識	がん患者の意思決定支援	気持ちのつらさへの援助	緩和ケアの概念	症状マネジメント							演習
					がん性疼痛の発生機序	がん性疼痛の薬物療法①	がん性疼痛の薬物療法②	がん性疼痛の薬物療法③	嘔気の治療と看護	息苦しさの治療と看護	せん妄の治療と看護	
目的	がんの基礎知識を理解し、がん患者の特徴を理解できる	がん患者の意思決定支援に必要な知識を理解し、実践に活かすことができる	がん患者の心理反応や援助方法について理解し、実践に活かすことができる	わが国における緩和ケアについて概観し、緩和ケアを担う看護師に求められる役割について考える	がん性疼痛の発生機序や薬物療法の必要性、看護師としての役割を理解することで、実践に活かすことができる	非オピオイド鎮痛薬について知識を習得し、実践に活かすことができる	オピオイドについての知識を習得し、実践に活かすことができる	鎮痛補助薬について知識を習得し、実践に活かすことができる	悪心・嘔吐の発生機序や原因を理解し、症状緩和を実践できる	終末期がん患者の呼吸困難のメカニズムを理解し、呼吸困難軽減への看護実践に活かすことができる	せん妄の症状や治療と看護を理解し、実践に活かすことができる	がん患者の症状について評価し、症状緩和方法を考えることができる
目標	<ul style="list-style-type: none"> 腫瘍の定義と分類について理解できる がんの転移と進行度について理解できる がん患者の特徴を知り、療養生活の支援方法を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん患者の意思決定支援について必要な知識を理解できる がん患者における倫理的課題を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのつらさの原因や対応方法が理解できる 注意が必要な精神症状や対応方法について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアとはどのようなケアであるかを理解できる 看護師に求められる緩和ケアとは何かを理解できる ACPとはなにか理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん性疼痛の発生機序と治療薬について知ることができる WHO3段階除痛ラダーについて理解する 痛みのアセスメントと看護師の役割について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> NSAIDsとアセトアミノフェンの作用と副作用を理解する NSAIDsとアセトアミノフェン投与時の看護援助について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> オピオイドの作用と副作用を理解する オピオイドタイムレーションとオピオイドスイッチングについて理解する オピオイド投与時の患者、家族の看護援助について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 鎮痛補助薬の作用、副作用を理解する 鎮痛補助薬投与時の看護援助について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 悪心・嘔吐の発生機序や原因を理解し、具体的な援助方法について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難のメカニズムがわかる 呼吸困難のケアを全人的側面から捉えて考えることができる 非薬物療法の必要性和方法が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> せん妄の症状や原因・治療について理解できる せん妄のある患者への看護について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> がんに関連する症状について、トータルペインの視点を含めたアセスメントができる 症状に対する治療法がわかる 症状に対する看護援助ができる 患者を尊重した支援ができる 家族への援助ができる

がん薬物療法看護コース

第2土曜日 13:30~16:30

講師：村尾めぐみ

【目的】 がん薬物療法とその副作用を理解し、安全な投与管理と患者のセルフケア能力を高める看護が実践できる						
【目標】 1. がん薬物療法看護に必要な基礎知識を習得できる 2. 主な疾患の病態と標準的ながん薬物療法について理解できる 3. がん薬物療法薬を安全に取り扱い、確実な投与が実践できる 4. 副作用マネジメントを理解し患者のセルフケア支援ができる 5. 患者が治療と療養生活が両立できるように、他職種と協働し継続支援の調整役になることができる						
講習日	1 7月12日		2 9月20日	3 10月11日	4 12月13日	
講師	村尾		村尾	村尾	村尾	
場所	講堂		講堂	講堂	講堂	
内容	がん薬物療法の基礎知識	投与管理とリスクマネジメント	・疾患別治療薬剤の理解 (肺がん、乳がん) ・副作用の理解と看護支援 (発熱性好中球減少症、免疫 関連有害事象)	・疾患別治療薬剤の理解 (大腸がん、胃がん) ・副作用の理解と看護支援 (悪心・嘔吐、下痢)	・疾患別治療薬剤の理解 (頭頸部がん) ・副作用の理解と看護支援 (皮膚障害、末梢神経障害)	講義/演習 抗がん薬曝露予防
目的	がん薬物療法の基礎知識を 習得できる	安全で確実な投与管理が できる	・主要な疾患の薬物治療につ いて理解できる ・副作用マネジメントを理解し 看護支援ができる	・主要な疾患の薬物治療につ いて理解できる ・副作用マネジメントを理解し 看護支援ができる	・主要な疾患の薬物治療につ いて理解できる ・副作用マネジメントを理解し 看護支援ができる	抗がん薬曝露予防について理 解し実践できる
目標	・がん細胞の特徴が理解 できる ・がん薬物療法の基本概念が 理解できる ・がん薬物療法薬の種類と 特徴が理解できる	・抗がん薬の安全な投与に必 要な知識が習得できる ・CVポートの管理に必要な知 識と技術が習得できる	・病期と治療方法が理解でき る ・使用薬剤の特徴が理解でき る ・副作用の機序と対処方法が 理解できる ・副作用症状がある患者の支 援について考え、実践に繋げ ることができる	・病期と治療方法が理解でき る ・使用薬剤の特徴が理解でき る ・副作用の機序と対処方法が 理解できる ・副作用症状がある患者の支 援について考え、実践に繋げ ることができる	・病期と治療方法が理解でき る ・使用薬剤の特徴が理解でき る ・副作用の機序と対処方法が 理解できる ・副作用症状がある患者の支 援について考え、実践に繋げ ることができる	・抗がん薬取り扱い時に必要 な準備ができる ・薬液が飛散した場合の対応 ができる

【目的】 1. 感染症看護における知識/実践能力を養い活かす事ができる。
2. 感染防止対策の推進者となる。

【目標】 1. 医療関連感染の防止ができる知識を習得する。
2. 看護ケアに関連する感染予防のメカニズムと対策について説明できる。
3. 医療関連感染防止対策を立案し実践・推進できる。
4. 国内外のエビデンスに基づいた、感染予防・管理に必要な情報を収集、分析取捨選択することができる。
5. サーベイランスの基本を理解し、特定疾患の出来事についての発生分布や原因に関するデータの収集方法、疫学

講習日	1	2	3	4	5	6	7
	6月20日	7月18日	8月8日	9月19日	10月17日	11月21日	12月16日
講師	田邊	小林	小林	横井(検査科)	田中(薬剤師)	嶋木	田邊
場所	講堂	講堂	講堂	講堂	講堂	講堂	講堂
項目	感染症と消毒薬	感染防止技術		微生物学	薬理学	職業感染管理	感染防止技術
	感染対策と消毒	ケアと感染予防		微生物学	薬理学	血液媒介病原体による 針刺し、切創・汚染予 防と発生後の対応 (HIV・HBV・HCV・ HTLV-1等)	領域別 感染防止
目的	1) 感染対策で用いる 消毒薬の選択と適正 使用を理解できる	2) 看護ケアに関連する感染予防のメカニズム と対策を説明できる		1) 医療関連感染で問 題となる微生物をの特 徴を理解できる 2) 耐性菌のメカニズ ム、及び種類と特徴を 理解できる	1) 抗菌薬の特性・種類 について理解を深める	1) 血液媒介病原体に よる針刺し、切創・汚 染予防と発生後の対応を 説明できる	1) 領域別感染防止対 策について理解し、実 践レベルで指導、助言 ができる
目標	① 感染症の特徴を知り、適切な消毒薬を選 択し感染拡大を防止で きる実践能力を習得す る	① 基本的な感染防止対策を理解する。 ② 看護ケアに関連した感染予防・管理につい て、科学的根拠の高い最新の知見をタイムリー に習得し、実践方法を習得する		① 病原微生物と感染 の成り立ちについて理 解できる ② 耐性菌感染症の感 染防止対策立案できる	① 抗菌薬の作用機序・ 適応・副作用・注意事 項などを習得する	① 針刺し切創による血 液・体液曝露と職業感 染予防策を理解する	① 産科・手術室・救急・外 来部門、などにおける感 染とその管理について理 解する。 ② 科学的根拠を理解し各 領域で最新の感染予防 策を提供する事ができる ③ 実践および指導を行 い、各領域の感染対策の 改善につなげる

皮膚・排泄ケアコース

土曜日(各月により設定) 10:00~12:30

講師：長久 裕紀

【目的】 褥瘡予防及び排泄管理(ストーマを含む)、創傷管理を要する患者とその家族に適切なケア、指導ができる					
【目標】 1. 褥瘡予防対策としてアセスメントを行い、ケアを考えることができる 2. ストーマ造設に伴って生じる患者の身体的・精神的・社会的問題を的確に把握し、質の高い継続的な看護を考えることができる 3. 失禁のある患者に対して、個人の失禁状態に適した看護が理解できる 4. 患者、家族、看護師からの相談に対し的確に指導を行うための知識を身につけることができる 5. 患者の問題解決に向けて、他の医療チームメンバーと情報交換を行い、相談、調整ができる					
講習日	1	2	3	4	
	2025年 7月19日	9月6日	10月25日	11月1日	
講師	長久	長久	長久	長久	
場所	講堂	講堂	講堂	講堂	
内容	褥瘡(創傷)ケア		オストミー		
	褥瘡予防ケア	創傷ケア	ストーマケア基本	ストーマケア応用	
目的	・褥瘡の発生機序とリスクアセスメントができ、実践に生かすことができる	・医療関連機器圧迫創傷についてアセスメントでき、臨床で生かすことができる ・創傷ケアについて理解でき、実践に繋がられる	・ストーマを理解できるケアの方法が理解できる ・患者指導の方法が理解でき実施できる	ストーマ及びストーマ周囲の状態を適切にアセスメントでき、必要なケアが実施できる	・排泄のメカニズムを理解し、アセスメントや状態に応じたケアを考えることができる
目標	・褥瘡発生のメカニズムが理解できる ・危険因子の評価が理解できる ・褥瘡予防ケアが理解できる ・褥瘡予防ケア用品の適切な使用方法が理解できる ・DESIGN-R2020を使用して褥瘡評価ができる ・根拠を持って褥瘡予防ケアができる ・ポジショニングが理解できる ・保湿の重要性が理解できる	・医療関連機器圧迫創傷発生のメカニズムが理解できる ・危険因子の評価が理解できる ・予防的ケアが理解できる ・創傷ケア一般について理解できる	・ストーマサイトマーキングの必要性と方法が理解でき実践できる ・ストーマについて理解しケアの方法が実践できる	・ストーマや周囲の皮膚の状態をアセスメントし、必要なケア、装具選択ができる ・ストーマ造設後に起こりうる合併症が理解できる ・オストメイトのボディイメージの変化を理解しケアを実践できる	・排尿困難をアセスメントケアに繋げることができる ・排便困難をアセスメントケアに繋げることができる ・失禁関連皮膚炎(IAD)が理解できケアに繋げることができる

【目的】 救急看護領域の知識や技術を持ち、各場面に応じた的確な判断に基づいて、確実な技術を実践できる						
【目標】 1. あらゆる状況下で、対象に応じた迅速で確実な救命技術・救急看護技術を実践できる 2. 救急医療現場において、病態に応じた迅速かつ的確なトリアージを実践できる 3. 救急医療現場において、患者の病態を理解し、実在する問題のみならず、予測される問題も把握・判断して臨機応変にケアを計画し実践できる 4. 危機状況にある患者・家族の心理的問題を的確に把握し、支援できる						
講習日	1	2	3	4	5	6
	6月28日	7月26日	9月27日	10月25日	11月22日	12月20日 8:30～12:00 13:00～16:30
講師	相馬	福岡	福岡	新地	相馬	新地
場所	講堂	講堂	講堂	講堂	講堂	講堂
内容	災害時看護 トリアージ メンタルアセスメント	フィジカルアセスメントとケア				病態とケア
		呼吸の フィジカルアセスメント	急性呼吸不全について	循環のフィジカルアセスメント 心電図の見方	生体侵襲反応 意識・腹部のフィジカルアセスメント	演習
目的	災害時のトリアージについて理解できる 救急・重症患者の家族心理を理解できる	呼吸器系の解剖生理と異常が理解ができる	呼吸器疾患の病態を理解し、必要なケアを選択し看護実践に活用できる	救急に特徴的な循環器疾患の病態を理解し、必要なケアを選択し看護実践に活用できる 心電図の基本的な見方が理解できる	侵襲時の生体反応について理解できる 意識障害の病態を理解し、必要なケアを選択し看護実践に活用できる 腹部の観察方法がわかる	急変患者の評価とその後の観察ができる
目標	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の医療体制が理解できる 災害トリアージができる ストレスコーピングについて理解できる 危機モデルを使用した患者と家族のアセスメントができる 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸音の異常とその意味が理解できる 酸素療法と人工呼吸管理に必要な知識が習得できる 	<ul style="list-style-type: none"> 主な呼吸器系障害の病態が理解できる (ARDS・喘息・慢性呼吸器疾患と急性増悪・肺炎) 酸素療法、人工呼吸療法中に必要なケアの根拠が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ショックの病態とメカニズムが理解できる 循環器系救急疾患の病態の理解を深めることができる 正常な心電図、異常な心電図がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 侵襲時の生体反応を理解し看護援助につなげることができる 意識障害のメカニズムについて理解できる 腹部の観察から得られた情報の意味を解釈できる 	<ul style="list-style-type: none"> 迅速評価ができる 急変時の緊急度が判断できる 異常の示す意味をアセスメントできる

手術看護コース

第3・4土曜日 10:00～12:30

講師： 奥野つかさ

【目的】 根拠に基づいた看護実践ができるエキスパートナースを育成し、当該部署の看護の質の向上を図る

- 【目標】
1. 周術期にある患者に対し、継続した看護が実践でき、他職種・他部門との調整役を担うことができる看護師を育成する
 2. 多様化・複雑化する手術を受ける患者に対して、最新の知識を持ち、専門的技術を用い手術看護が実践出来る看護師を育成する
 3. 二次的合併症予防のための安全管理に努め、看護実践を通して他の看護師に対して指導ができる能力を育成する

講習日	1		2		3		4
	6月21日		7月26日		10月18日		11月22日
講師	奥野		奥野		奥野		奥野
場所	講堂		講堂		講堂		手術室
内容	手術看護概論	手術室医療安全	術後疼痛管理	体温管理	深部静脈血栓症	麻酔看護	体位固定による神経損傷・皮膚損傷予防演習
目的	周術期における手術室看護師の役割を理解できる	手術室における医療安全対策について考えることができる	術後疼痛による生体反応を理解し、術後疼痛管理の必要性が理解できる	体温調節のしくみを理解し、体温変化に合わせた看護について理解できる	深部静脈血栓症の機序について理解し、肺梗塞の予防について理解できる	麻酔の種類と適応について理解し、麻酔看護について理解できる	手術体位が患者に与える影響について理解し患者の状況に対応できるアセスメント能力・技術を確立する
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・術前・術中・術後看護について理解できる ・倫理的役割について理解できる ・チーム医療における手術室看護師の役割について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全における手術室看護師の役割について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術侵襲と生体反応について理解できる ・鎮痛効果について正しくモニタリングすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のしくみが理解できる ・手術でおこりやすい体温変化について理解できる ・体温管理の看護について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・止血凝固系の機序について理解できる ・深部静脈血栓症のリスク評価について理解できる ・肺梗塞予防の看護について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔の種類・適応について理解できる ・全身麻酔の看護について理解できる ・局所麻酔の看護について理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・体位固定による生体への影響について理解できる (仰臥位・側臥位・腹臥位・砕石位) ・手術中の患者の安全・安楽を確保し、体位固定の実践、リスクをマネジメントできる ・演習を通して受講生でのディスカッションを行い、個別性に合わせた体位固定を実践することができる